



CFTC建玉報告:円/ドル、ユーロ/ドル(5月29日時点)

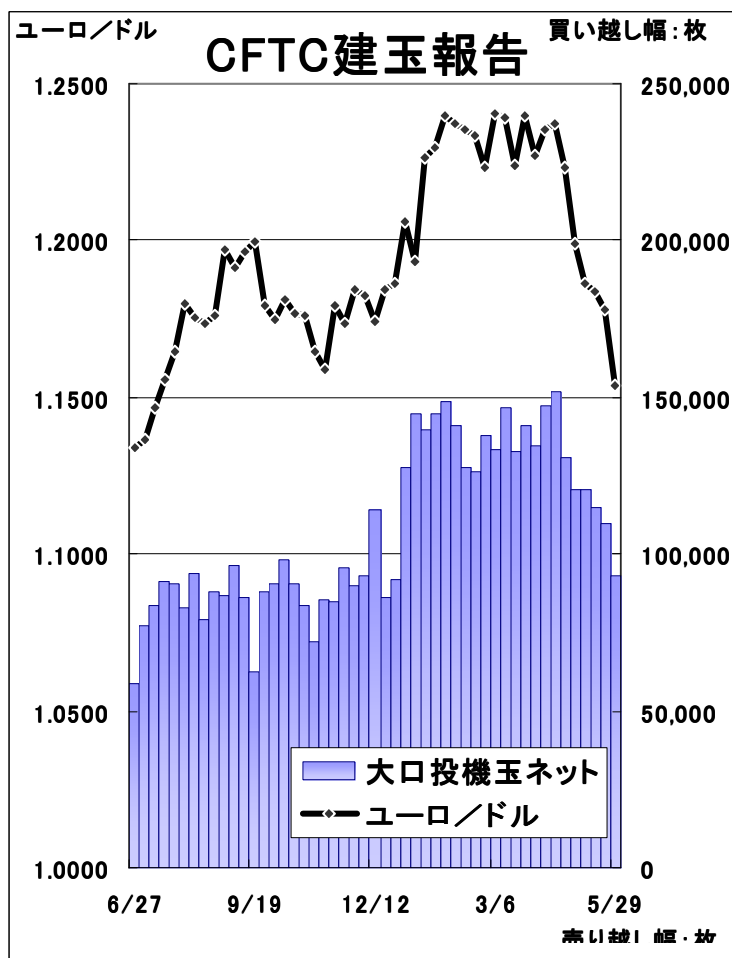
米商品先物取引委員会(CFTC)が6月1日に発表した建玉報告によると、5月29日時点のシカゴ・マーカンタイル取引所(CME)IMM通貨先物円(対ドル)相場の大口投機筋(非商業部門)の売越幅は8036枚となり、前週と比べ5269枚拡大。投機筋は売り買い共にポジションを減らし、買いポジションをより多く減らしていた。

期間中の円(対ドル)は軟調。トランプ米大統領は23日、米通商拡大法232条に基づき、トラックを含む自動車・同部品の輸入が安全保障に与える影響について調査を検討するようロス商務長官に指示。「安保上の脅威」があると判断されれば米国への輸入車に最大25%の関税が課せられる恐れがあるため、世界的な貿易摩擦に対する警戒感が台頭したほか、北朝鮮外務省で対米交渉を担当する崔善姫(チェ・ソンヒ)外務次官が24日、6月12日に予定されている米朝首脳会談の中止を改めて示唆したことで地政学リスクが再燃し、円買いドル売りが進行した。

期間中のユーロ(対ドル)は下落。大口投機玉の買越幅は、9万3037枚となり、前週比1万6707枚縮小。

イタリア政局不安が継続。マッタレッタ伊大統領の指名を受け、コンテ次期首相が閣僚人事の選定に着手したが、与党指導者らはユーロ懐疑派エコノミスト、パオロ・サボナ氏の経済相起用を求めたことで、ユーロは下落。27日には大統領と合意できなかったとして就任断念が表明されたことで、政権の右傾化が避けられるとの期待からユーロは買い戻されたものの、政局の不透明感から戻りは限られた。また、スペインではラホイ首相の退陣要求が強まるなど欧州の政局に対する懸念が広がっていることも、ユーロが売られる要因となった。

日付	円/ドル		ユーロ/ドル	
	終値	枚数	終値	枚数
01/30	108.84	-114,696	1.2397	148,742
02/06	109.54	-112,876	1.2373	140,823
02/13	107.78	-115,509	1.2356	127,289
02/20	107.24	-108,338	1.2336	126,126
02/27	107.36	-96,651	1.2231	137,977
03/06	106.20	-86,845	1.2405	132,972
03/13	106.54	-79,539	1.2391	146,380
03/20	106.53	-21,999	1.2240	132,739
03/27	105.38	-3,668	1.2401	141,064
04/03	106.62	3,572	1.2268	134,381
04/10	107.19	2,761	1.2352	147,463
04/17	107.01	2,591	1.2373	151,476
04/24	108.81	583	1.2231	130,594
05/01	109.85	-1,405	1.1991	120,568
05/08	109.12	-5,462	1.1864	120,505
05/15	110.36	3,680	1.1837	115,114
05/22	110.91	-2,767	1.1777	109,744
05/29	108.75	-8,036	1.1535	93,037
前週比	-2.16	-5,269	-0.0242	-16,707



第一商品株式会社 〒150-0045 東京都渋谷区神泉町9番1号 神泉プレイスビル フューチャーズ・24

このレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたもので投資勧誘を意図するものではありません。投資の最終的な決定はご自身の判断と責任でなされますようお願い致します。レポートに記載の内容等は作成時点のものであり、当社はその正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく修正、変更されることがあります。商品先物取引業者 日本商品先物取引協会会員 当社お客様相談窓口(東京・本社) 0120-770-266、日本商品先物取引協会相談センター東京本部 03-3664-6243。